

令和7年度 第2回 県居小学校運営協議会 会議録(要点記録)

- 1 開催日時 令和7年7月31日(木) 13時30分から14時40分まで
- 2 開催場所 県居小学校 音楽室
- 3 出席委員 本多 正明、早川 大介、中村 恵美子、稲垣 美世子、河村 恵子
- 4 欠席委員 仲道 有美
- 5 オブザーバー 県居協働センター 桐澤 祐貴
- 6 学校支援コーディネーター 中根 理恵
- 7 学 校 北村のぞみ(教頭)、中西啓介(教務主任)、石崎慶子(CS ディレクター)、他教職員 16名
- 8 教育委員会 鈴木 陽子(教育総務課)
- 9 傍 聴 者 なし
- 10 会議録作成者 CS ディレクター 石崎慶子

11 議長の選出

会長から本多委員を推挙する旨の発言があり、全員異議なく了承した。

12 協議事項

- (1) 中間評価の結果について
- (2) グループ熟議
- (3) グループごとの発表を受けての全体熟議

13 会議記録

司会の稲垣会長から、委員総数6人のうち5人の出席があり、過半数に達しているため、会議が成立している旨の報告があった。

(1) 中間評価の結果について

議長の指示により、中西教務主任から、別紙資料に基づき令和7年度グランドデザインの重点目標確認と、学校評価(中間)の結果報告があった。

(2) グループ熟議

委員と学校教職員がグループになり、学校評価(中間)の結果に基づき、教職員が予め分析した成果や課題、及び改善策について、熟議を行った。

【学びグループ:本多委員、中根コーディネーター、教員5名】

重点項目「相手を意識した伝え方・聞き方」

■ 分析

・教師が求める理想像と、子どもたちの考えるものがずれているのではないか。

■ 対策案

・初心に戻って、ひとつひとつ丁寧に教えていく。できて当然ではなく、対話の必要性を伝えていく。
・文ではなく単語で言うってしまうようなコミュニケーション力が減っている姿が見られる。言葉を正す、付け加えるということも担任として必要。

・授業だけではなく、生活においても相手を意識して対話をする時間を設ける

重点項目「ICT 活用の推進」

■ 分析

・保護者の評価が低いのは、ICT 活用が保護者に伝わっていないのではないか。保護者が ICT 活用を実感する機会は、タブレットを用いて家庭で宿題をする場合のみだと思われる。

■ 対策案

・参観会でタブレットを用いた授業を公開するなど、保護者に実感の機会を持ってもらう。
・どのように活用していくのか、を考えていくことも大切にしたい。

【笑顔グループ:早川委員、河村委員、教員6名】

重点項目「進んで気持ちのよいあいさつができる子の育成」

■ 分析

・児童と教員の評価にギャップがあるのは、「自分から」の認識に差があるのではないか。
・コロナを経て、挨拶が難しくなった。また、知らない人へのあいさつも、今の時代は難しい。

■ 対策案

・「よい挨拶」を具体的に児童に示してみるのがよいのでは。
・図書委員が図書室に来た児童にあいさつをするなど、委員会活動を通じてあいさつを広めていくのもよい。
・よい挨拶ができている子をほめてあげることにより、できている子にもフォーカスをあてていく。

重点項目「認め合う安心できる学級づくり」

■ 分析

・学校の中であいさつが増えていくことにより、認められているという意識が高まっていくのではないか

■ 対策案

・係や委員会などで活躍する役割を与えることで、認められていると感ずることができるのではないか。
・校内でのあいさつを増やしていきたい。

【元気グループ:稲垣委員、中村委員、教員5名】

重点項目「保護者と連携した食育の推進」

■ 分析

・家庭の事情もそれぞれであり、家庭と連携していくのは難しい。

■ 対策案

・命の大切さ、栄養素については伝えていくことで伝わることもあるのではないか。
・給食献立が確実に保護者に渡らない場合もある。さくら連絡網で送ってはどうか。
・給食委員会で、好きな給食や苦手な給食のアンケートを取り、給食だよりを発行していくこともよいのではないか。
・残食の考え方が学級によって異なっており、自分で食べきる量を調整し、食べきる、ということを学校で統一していてもよいのではないか。

重点項目「情報モラル教育の推進」

■ 分析

・「正しい使い方」について、児童は学校での様子を回答し、保護者は家庭での様子を回答し、ギ

ヤップが生まれているのではないか。

■ 対策案

・家庭での使い方など、情報に関する「ルールを作る」ところに重きをおいて、家庭に対して伝えていくのがよいのではないか。

(3) グループごとの発表を受けての全体熟議

学校評価(中間)アンケートと、クラス担任とのグループ熟議について、委員の方々から次の発言があった。

- ・相手に聞こえるあいさつをする、という意識を子どもたちが持つとよい。(中村委員)
- ・旗振りも、必ず保護者が行うため、児童にとっては安心できる存在であるが、保護者のほうが、あいさつをあまりできていない様子を見かけたことがある。旗振りの保護者に対して、保護者から積極的にあいさつをする、ということ発信していくとよい。(稲垣委員)
- ・献立表など、どんなものでも家庭での話題となり得る。あいさつについても、あいさつの仕方、声の大きさ、目を見てのあいさつなど、家庭での話題にし、できることからやっているとよい。(河村委員)
- ・最初からうまくやるのは難しい。どの程度で相手が傷つくのか、などは経験を重ねないとわからない部分でもある。伝え方・聞き方も、手助けを加えていくことで伸びていくのではないか。言葉選びを重ねていくことで成長していく。(早川委員)
- ・もう少しグループ熟議の時間を長く取れば、もっと有効な話し合いができたのでは。(本多委員)
- ・昨年度と比べて、職員評価の数値が変化している箇所が多い。今年は新しく本校に赴任した職員も多く、変化が大きい項目は、本校の強みや弱みを表していると考えられる。この数値を参考にしていきたい。(本多委員)
- ・今回の熟議を受け、第3回運営協議会では、改善策を具体化していく。(本多委員)
- ・すべてコミュニケーションにつながっていることを実感した。今の時代、警戒心を強くしたり、親子のコミュニケーションの取り方も変わってきている。協働センターに来る子どもたちに話しかける、保護者と話す姿を見せるなど、できることをしていきたい。(桐澤)

その他報告事項等

学校支援コーディネーターの本多委員から、1学期の県居小サポーター活動報告があった。

1学期は18回の活動があり、135名が参加した。

図書ボランティアは、環境ボランティアとして掲示の貼り替えを5回、また、賀茂真淵記念館への和歌掲示及び回収を行った。読み聞かせボランティアとして火曜日に7回実施。毎回7名ほどの参加があった。

教頭から、次回会議は、令和7年9月25日(木)10時20分から県居小学校会議室で開催する旨の連絡があった。